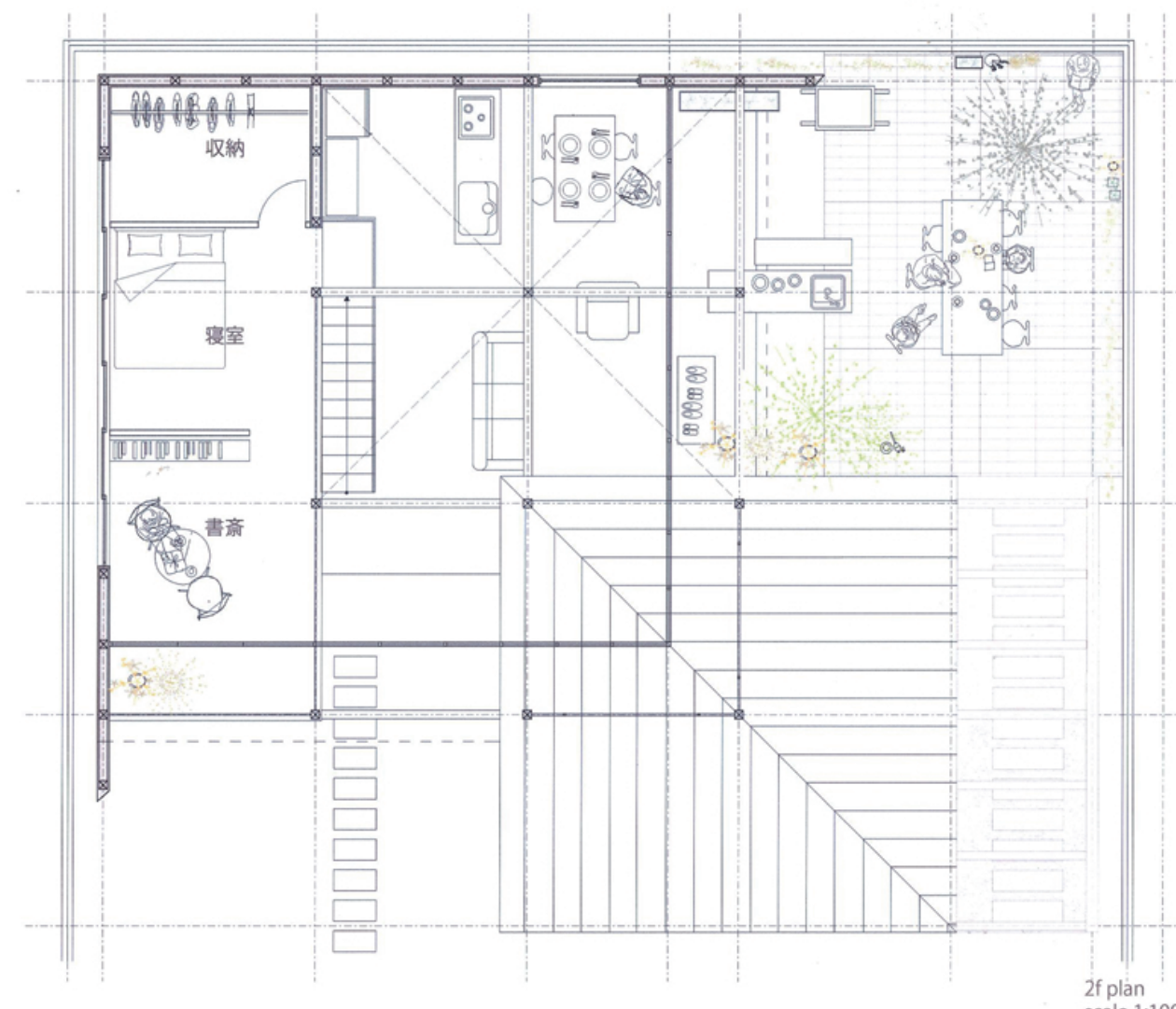
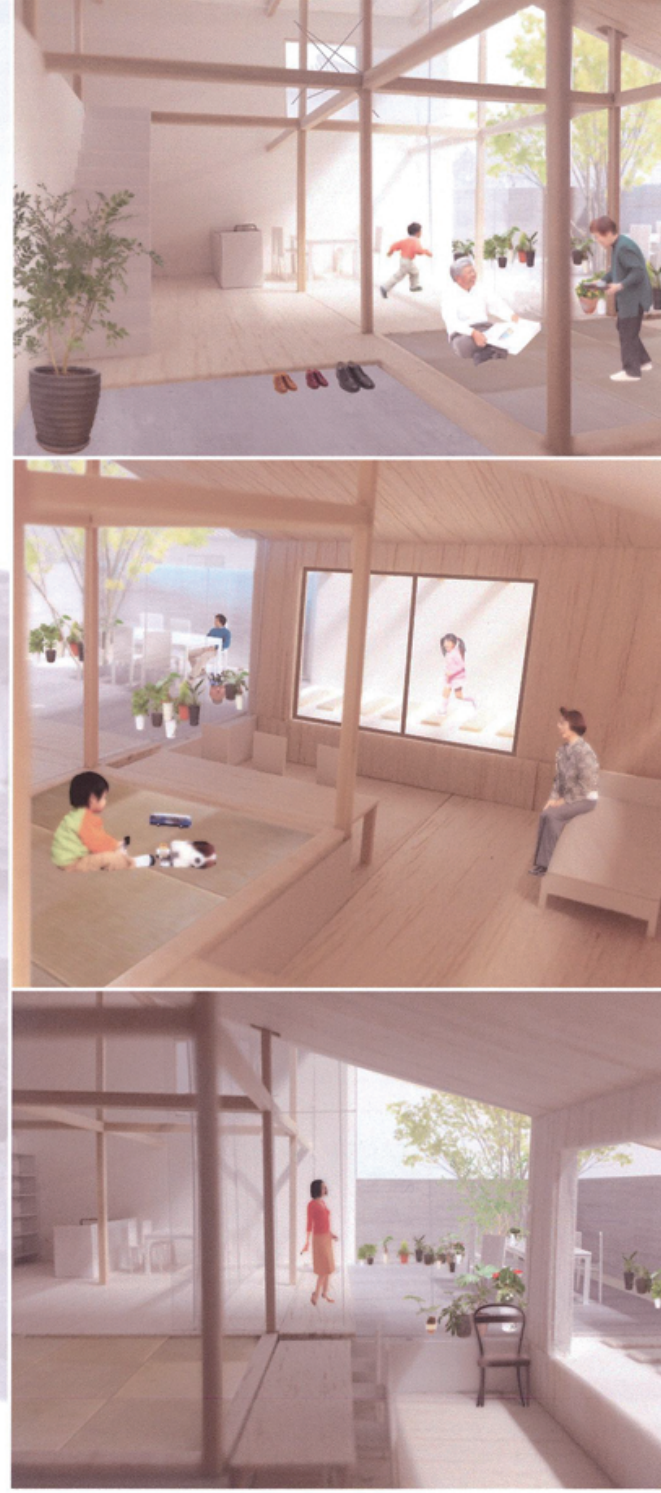
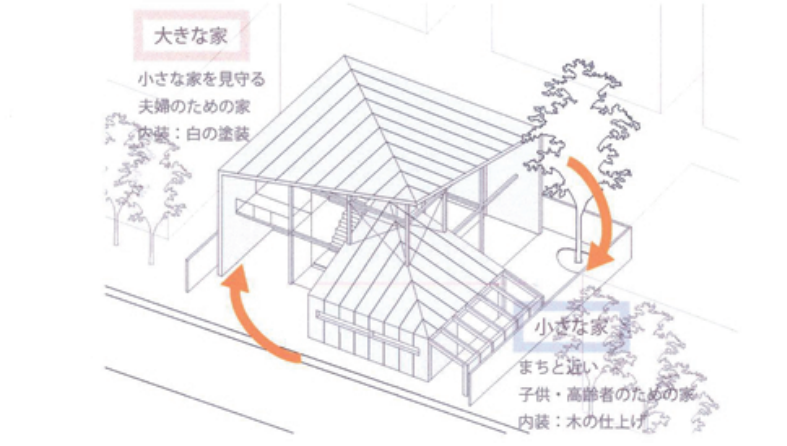


時をつむぐ記憶の家

核家族化 / 高齢化が進む現代において、住宅や生活環境を受け継ぐことの大切さを考えたい。
日本的な昔ながらの住宅は、家族に愛され、手入れして、世代を超えて大切に受け継がれていくものであった。
一方、現代の住宅は、設備環境は整ってきているものの、売り切り型の商品としての住宅モデルが確立しており、ライフスタイルが多様化している社会に対して、その変化に対応しきれていない。
そこで、時の流れに伴う家族構成の変化を許容する柔軟性を持った住宅を考える。
住宅の長い年月を世代を超えてつむぐ。世代ごと家族ごとに居場所を移り住みながら、時を経て思い出のあふれる記憶の家となっていく。

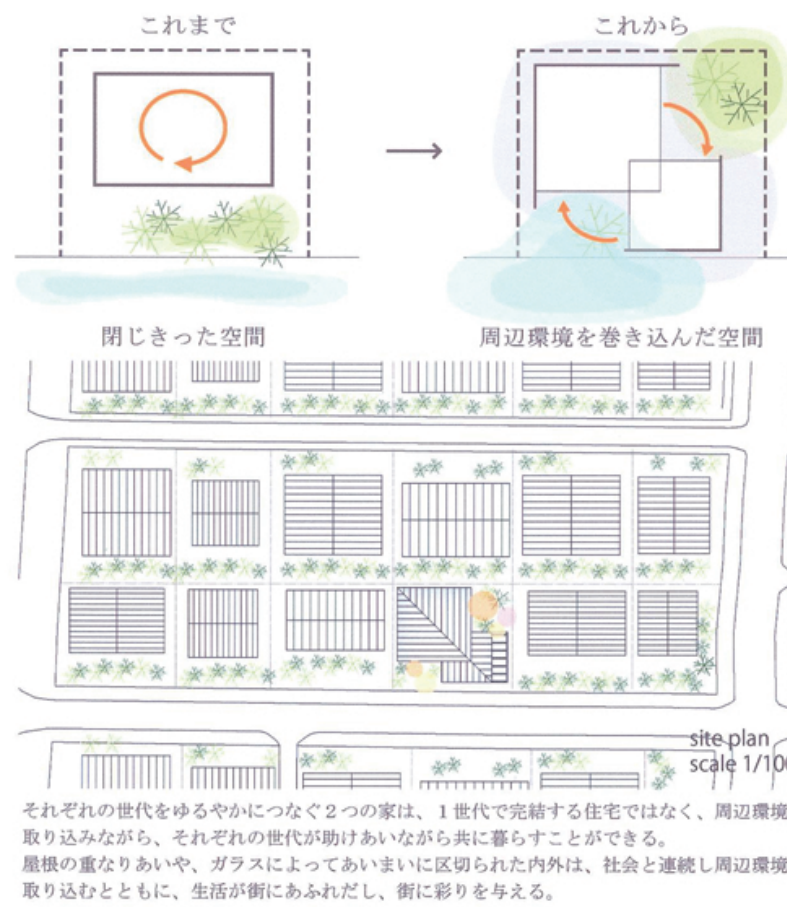


■大きな家と小さな家 - 世代ごと家族ごとに移り住みながら時をつむぐ -



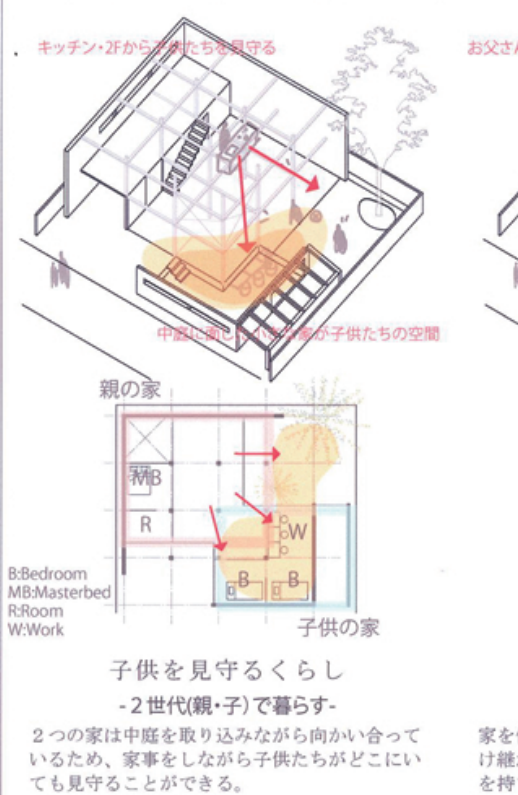
異なる大きさの2つの家を世代ごとに住み分け、家族構成が変化するにつれて住み替えを行い、2つの家の記憶をつむぐ。家族が成長するとともに家も成長していき、世代を超えて家と共に刻んだ時間の蓄積が、記憶に残る「住まい」となっていく。

■周辺環境を巻き込む2つの家



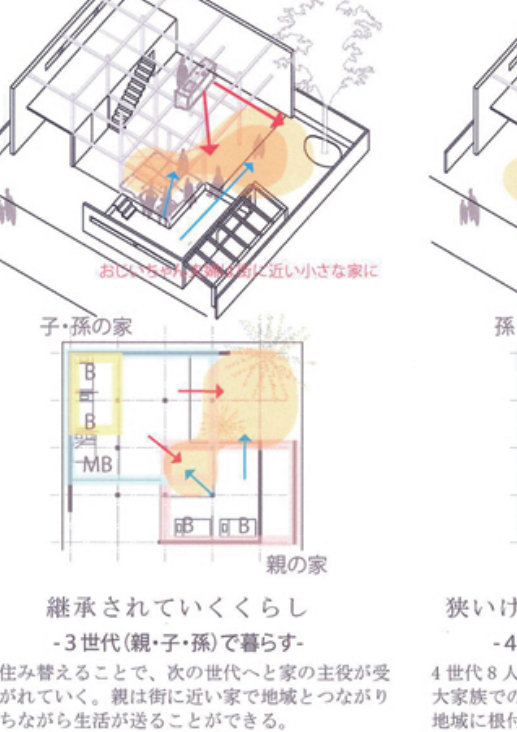
■多様な家族構成に対応した住まい方 - 世代を超えて家をつむぐ暮らし -

時代ごとに変化するライフスタイルに柔軟に対応する。多世代が重なるときには見る見守る関係が生まれ、住宅の一体感、集まって住む豊かさを感じることができる。



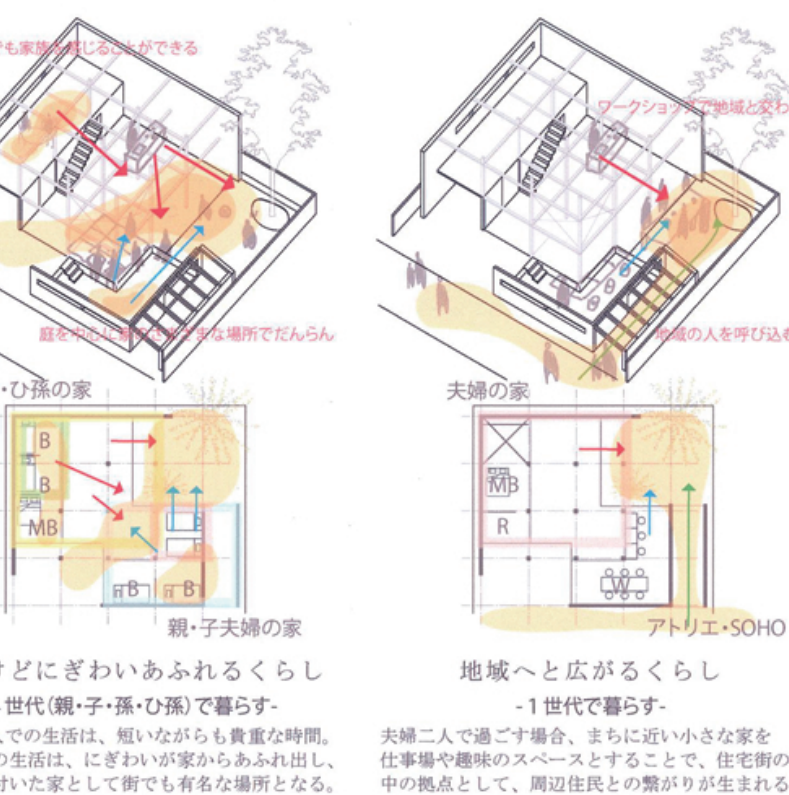
■2つの家がつくる空間

大きな家と小さな家によって囲われた大空間。和室を中心として二つの家は重なり合い、その場所が家族団らんの中心となる。二つの家をライフスタイルに柔軟に対応してフレキシブルに住まうことで、世代を超えて生活の記憶が染み込んでいく。



世代を超えてつむぐ家の記憶

0 20 40 60 80 100
親 子 孫 ひ孫



大きな家と小さな家

大きな家と小さな家によって囲われた大空間。和室を中心として二つの家は重なり合い、その場所が家族団らんの中心となる。二つの家をライフスタイルに柔軟に対応してフレキシブルに住まうことで、世代を超えて生活の記憶が染み込んでいく。

